オンライン証券業界における経営施策とその影響のシステムダイナミクスモデリング

Systems Dynamics Modeling of Impacts Affected by Management Policies in Online Securities Trading Service Business

東京都市大学 TOKYO CITY UNIVERSITY

志伊良正幸 (東京都市大学)　木本一良 (東京都市大学)　岡田公治 (東京都市大学)

1.背景および目的

オンライン証券業界において，黎明期(1999~2002年)には，松井証券は他社に対して優位性を示していた.
しかし，2006年以降は他社の成長により優位性が変化した.
業界の中で起こった優位性の変化の要因とその影響を表現しうる動的モデルを構築する.

2.モデルの構築

1 取引方針の異なる2種類の顧客層

一般トレーダー
- 手数料の安い企業で口座を開設しやすい
- 最初に口座を開設した企業から移動しない

アクティブトレーダー
- サービスを重視する顧客と手数料を重視する顧客がいる
- 自社の手数料より他社が安く設定すると他社に移動する

2 外部環境の変化（投資ブーム）

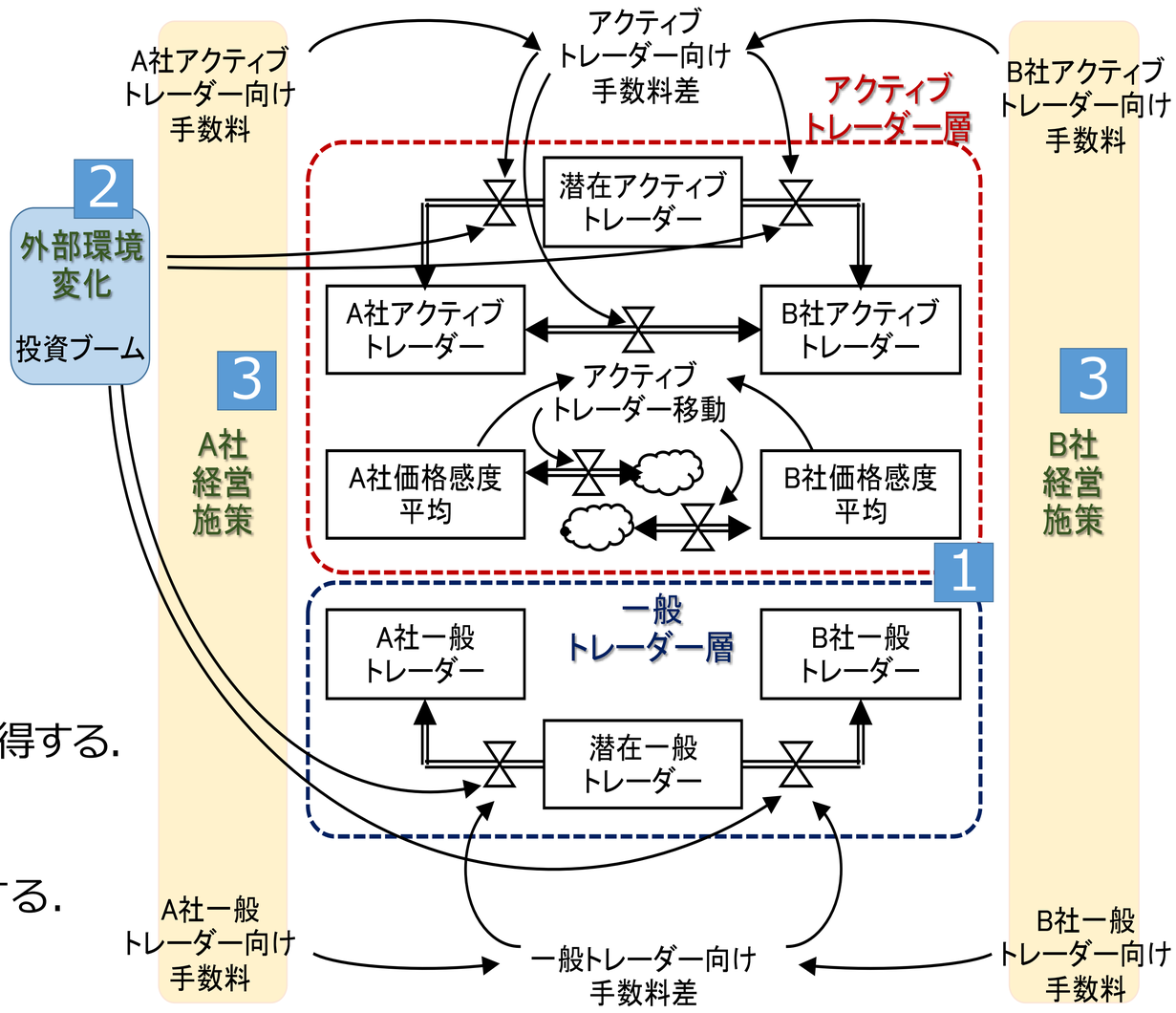
一般トレーダー：口座開設数や平均取引額を大きく増減させる
アクティブトレーダー：投資ブームによる影響は小さい

3 経営施策の違い

各企業の経営施策として手数料価格を用いる.
各企業は手数料価格を引き下げることにより，価格感度の高い顧客を獲得する.
しかし，手数料価格を下げた場合，手数料収入が減少する.

※単純さを重視し 2社間での顧客の取合いを中核としたモデルにする.

モデル概略構造

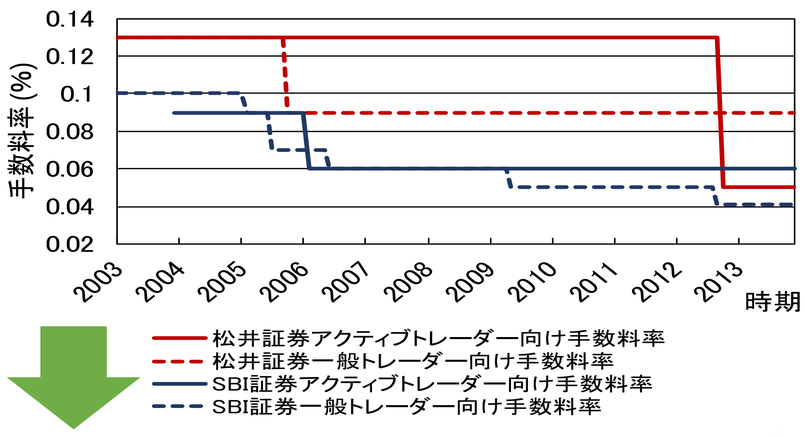


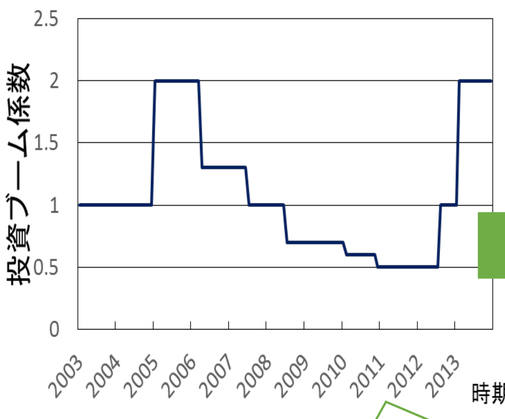
3.シミュレーション結果

対象企業の選定　黎明期に大きく優位性を持っていた松井証券と以降，最大手となったSBI証券を対象とする.

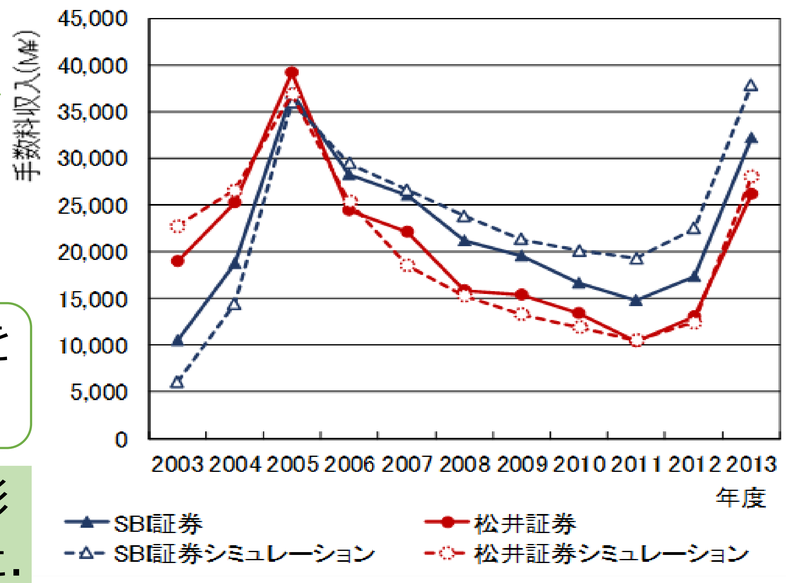
シミュレーション内容

実際の手数料推移を調査し設定





日経平均株価や市場動向を調査し設定



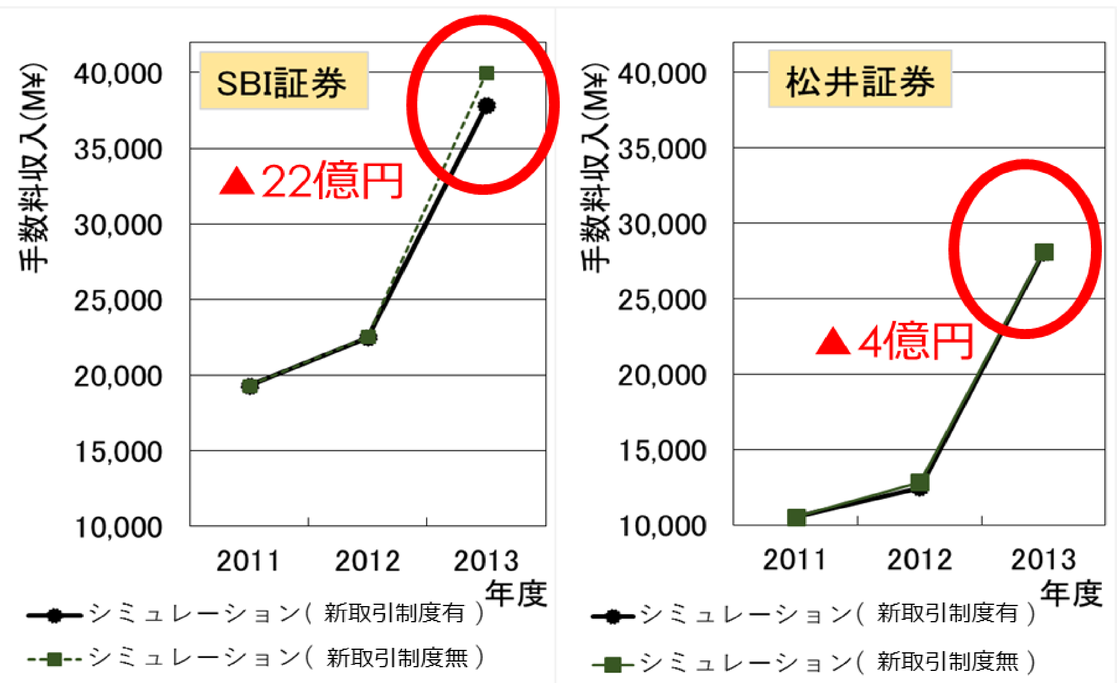
シミュレーション結果と実際の業績の比較

経営施策による業績への影響を再現することができた.
構築したモデルには妥当性があると考える.

モデルを利用した事例

新サービスに関するシミュレーション

新サービス（一日信用取引）
松井証券によるデイトレード取引限定で手数料が無料となる施策（2013年1月～）



新サービスを実施した場合と実施していない場合のシミュレーション結果の比較

松井証券への影響は限定的だが，SBI証券に対して22億円の収入を奪うことができている.

4.結論

オンライン証券業界の中で起こった優位性の変化の要因とその影響を表現しうる動的モデルを構築した.
構築したモデルでは，松井証券とSBI証券を対象にシミュレーションを実行した結果，2005年をピークに松井証券の優位性が失われていく状況が再現できた.